

二〇一六年三月二五日

早蕨の拳を翳すなぞへかな
おしげなく黒髪切つて卒業す
遠足のしんがりにつく神の鹿

ともえ

よう子

うつぎ

二〇一六年三月二四日

飛行船空に浮かべて山笑ふ
古町のうだつをかすめ燕来る
方丈の広縁借りて春惜しむ
手掴みにあさを量り売りにけり

豆狸

菜々

菜々

満天

二〇一六年三月二三日

咫尺なる初音に鋏を休めけり
庭手入れこんなところに名草の芽
デッサンのモデル蛙の目借時

よし女

明日香

よう子

二〇一六年三月二二日

法要のメモ吹き飛ばす春疾風
ビルの上眉の如くに春の雲
末広に水尾広げ行く夫婦鴨

なつき

治男

豆狸

二〇一六年三月二二日

初蝶や海を見下ろす遥拝所
仰ぎ見る吾にウインク春の星
里人の訛りも親し花大根

さつき

菜々

よし女

二〇一六年三月二〇日

うらがへる法螺の笛の音彼岸寒
山寺にひびく瀬音や梅日和
青空へ高梯子かけ剪定す

なつき

有香

宏虎

二〇一六年三月一九日

真つ先に芽吹き初めたる枝の先
書淫の眼窓に見やれば春の雨
風光る中霊柩車見送りぬ
春天へ三門の簷反りにそる

満天

宏虎

三刀

菜々

毎日句会みのる選・二〇一六年三月二七日